

伝え合う相手を思いやりよりよい情報の送受信者としての資質を高める協働学習の試み

～「わたしたちの学校、地域紹介CM」の制作と交流活動を通して～

岡山市情報教育研究会

〒700-0166
岡山県岡山市北区伊島町1丁目6-6 岡山市立伊島小学校内

1. はじめに

ICT機器の利活用による「教育の情報化」は、校務や学習指導を効果的に進めるために不可欠であり、フラッシュ教材、実物投影機等を活用した学習指導の提言がなされて久しい。しかし、一方で小学校児童の「情報活用能力」を伸張するための取り組みの重要性は、学校現場の教師に十分に認識されているとは言えない。平成23年度から完全実施された新学習指導要領においては、各教科、領域において従来以上に情報活用能力を発揮させるような学習活動が盛り込まれている。言語、非言語を問わず受け取ったさまざまな情報を適切に判断して読み解いたり、読み取ったことをもとに相手に分かるように構成や表現方法を吟味して送り出したりするような、高い情報活用能力を求められる場面が新しい教科書に散見される。

2. 研究の目的

本研究では総合的な学習の時間等を使って、岡山県内の学校間を結んでの「わたしたちの学校、地域紹介CM（以下学校CMと記す）」の制作と交流活動を通じた協働学習を試みる。具体的には、協働学習参加校の地域、校内の話題・問題などをテーマに、参加校の児童が15秒から30秒程度の学校CMを制作し、参加校同士で視聴し評価し合う。CMの制作と相互評価をふまえた協働学習を重ねることにより、「どんな表現だとよく分かるのか」「相手に伝わりやすくするためには何に留意すればよいのか」等、児童が望ましい情報の送受信の在り方に気づき、情報活用能力を高めていくことができるかどうかを検証する。

3. 研究の方法

CMの制作は、児童がメディアとしてのCMがどのような役割や特性をもっているのかを十分理解し、CMの受信者の体験を経た後に取り組みようにしたい。まず、一般のテレビCMを視聴、分析し、CMが人の意識をひきつける秘密について考えさせる。

次に、株式会社電通と東京学芸大学が推進する「広告小学校」のプログラムを活用した情報発信を体験する。児童が深めたCMの特性に関する理解をもとに、簡単なCM劇の制作に取り組み。その中で発信する情報の取捨選択、編集などを体験し、「どうすれば人の意識をひきつけることができるか」という課題を解決できるようにする。

CM作りの基礎的な力を習得後、学校CMとしてそれぞれの学校で発信するテーマ探しに取り組み。ここで取り上げる課題は、「学校、地域の自慢」「学校、地域で困っていること」など、参加各校の実情に応じたテーマで、各校の児童の実態に応じて構想する。ただし、学校間で交流するCMなので、教育的な意義や人権感覚に十分配慮し内容を精査した上で制作する。

制作された学校CMは参加校同士でweb上の大容量ファイル転送サービスを使って交換し、視聴・交流する。学校CMの相互評価を行いながら、相手の学校CMが伝えようとしている内容について考えたり、

よく伝わった点、分かりにくい点などについて意見を交換する。それをもとに、よりよい表現となるように修正したり、児童のこれからの表現活動に生かしたりする。

また、学習活動をサポートする教師自身もメディアを活用して指導する際の力量を高めるために、児童の情報活用能力育成の在り方について学ぶ研修会やセミナー等に参加する。教師も十分なメディア体験を積んだ上で自信をもって指導に臨むことができるようにしたいと考える。

一連の活動の中で、児童の情報の送受信者としての資質の高まりや意識の変容について、児童の発言や成果物、活動の姿勢等を観察することにより追究したいと考える。

4. 研究の内容と経過

(1) 研究計画の立案と授業実践の構想

参加校の教師が集まり、参加各校の協働学習の実践内容と実践場面の位置づけを行った。岡山市内の伊島小学校、西小学校、山間部にある真庭市立八束小学校、瀬戸内の海岸にある瀬戸内市立牛窓東小学校の4校が連携して協働学習を進めた。各校で学校CMとして題材化できそうな内容を考えディスカッションをした。その上で学習を進める上での共通理解事項を確認した。

(2) 参加校教員の研修

情報発信のあり方について造詣の深い講師を招き研修会を開いた。総合的な学習の時間に児童の身につけさせたい力について確認したり、先進事例の講義等を受けたりした。また、教師自身がメディアと向き合う資質を高めるための学習会へも参加し、今後の実践に資するように配慮した。

(3) 授業実践

授業実践は株式会社「電通」の推進する「広告小学校」のプログラムを活用・発展して進めた。

ア 共通の題材を活用した学校CM作りの基礎体験

まず、児童が普段視聴しているテレビCMを視聴したり、情報教育テキスト「私たちと情報」（学研刊）を手がかりに、CMの送り手が伝えようとしている意図、またその意図を伝えるために工夫している表現方法等について分析活動を行った。「CMには必ず送り手の思いがこめられている」という事実をつかませ、自分の思いを分かりやすく相手に伝えるために数多くの工夫が凝らされていることについて考えさせた（図1）。

次に、株式会社「電通」の学習プログラム「広告小学校」を活用し学校CM制作の基礎体験を行った（図2）。広告主から委託されたという想定で、子ども向けのお菓子を宣伝するCM劇を作る活動である。児童の創意をもとにグループごとにCM劇を制作し相互評価を行った。児童は、「同じ商品の宣伝であっても、伝えたいポイントが違えば表現される内容が大きく変わる」ことや「表現する言葉、姿勢、見せる写真やもの、声の大きさなどの違いで、伝わり方が変わる」ことに気づいた。



図1 CMの分析活動（伊島小5年）



図2 CM劇体験（牛窓東小5年）

イ 各小学校の学校CM作りを軸とした協働学習

基礎的なCM劇制作体験をふまえて、各小学校の実態に即した地域・学校紹介の学校CMの制作に取り組んだ。

○各校の学校CMの構想

児童が学校生活の中で向き合う地域の問題点や、学習の中で取り上げる地域や学校の特徴的な事象を出し合い、表現するテーマを選定した。表1はその題材の一部である。

参加小学校	題材化されたテーマ例
岡山市立伊島小	京山太陽光発電所、運動公園、観音寺用水、伊島小の校訓
岡山市立西小	米作り、地域のお年寄りの方との交流、地域のゴミ問題
瀬戸内市立牛窓東小	牛窓の観光名所、地域の伝統行事
真庭市立八束小	地域の農産物（ひるぜん大根、ひるぜんジャージー牛）

表1 協働学習参加校の題材例

○学校CMの具体化と制作

児童が表現する学校CMの内容や表現の方法を具体化した。同じテーマごとにグループを作り、学校CMのキャッチコピーを決定した。そして、キャッチコピーに沿って児童が表現する方法や演出などを具体的なものにしていった。「このキャッチコピーを選んだ理由は何か?」「学校や地域のどんなよい点、問題点を知ってもらいたいのか?」を繰り返して考えさせた。「このCMを見てもらうことで、見た人にはどんな影響が与えられるか?」といった情報の送り手の立場を意識させ、学校CMを作った(図3)。



図3 CM劇の具体化(伊島小5年)

また、振り付けや歌、小道具などは、自分たちが伝えたい内容を効果的に演出できるかどうかという観点で吟味し、用意するように助言した。

○学校CMの校内相互評価

できあがった学校CMをクラス内で見せ合い相互評価を行った。授業参観などの機会をとらえて保護者に評価してもらったりした(図4)。学校CMを見る際には「伝えたい内容と表現される言葉が一致しているか」「伝えたい内容がはっきりとしているか」「分かりやすい言葉や適切な大きさの声で表現しているか」などの観点をもたせるようにし、表現内容を確認するように助言した。



図4 参観日での発表(伊島小5年)

○学校CMの相互視聴を通じた他校との協働学習

クラス内で発表した学校CMをビデオに収録し、web上の大容量ファイル転送サービスを使って交換し、視聴および相互評価を行った。大規模校と小規模校、山間部と都市部など各学校で校



図5 視聴・相互評価（伊島小5年） 送付されたCM映像（八束小4年）

内の環境や地域の事情が違うことを配慮し、学校CMにはそのCMを児童が制作しようとした背景などを補足するメッセージを添えた。ビデオで視聴する他校の学校CMに児童は関心を示し、相手が何を伝えようとしているのかを、言葉、フリップ、動きなどから読み取ろうとした（図5）。以下は、相手校の学校CMを視聴しての児童の感想である。

- 牛窓東小の人たちは5年生が9人しかいないのに、地域のことをとてもよく調べてCMを作っていることが伝わってきました。特に牛窓にしかない「唐子おどり」というのが有名なことが分かりました。牛窓に行ってみたくまりました。（伊島小5年女子）
- 伊島小のそばには京山があって太陽光発電所があることを初めて知りました。世界でもアメリカと伊島にしかないのがすごいです。CMなのでもう少し大ききな方が分かりやすいと思います。（西小5年男子）
- 八束小の3、4年生はひるぜんの農業のことをとてもくわしく調べていました。ひるぜん焼きそばは有名になっていたけど、おいしそうで食べたくまりました。（牛窓東小5年女子）
- ぼくたちの学校も、地域の方がいろいろな勉強を教えてください。西小は1000人以上もいる大きな学校でぼくたちの学校とはちがうけど、お米作りをしているのがおもしろいです。岡山市でも農業をしている人がいることが分かりました。（八束小4年男子）

また、他校の児童の評価から明らかとなった自分達の学校CMの改善点についてふりかえり、以降の総合的な学習の時間の発表の内容や表現方法に生かす姿も見られた。また、学校CM制作で身につけた力を生かし、総合的な学習の時間の最後のまとめをCM劇で表現した児童があり、表現活動の充実の一助となった。

5. 研究の成果と課題

研究の成果について記す。

○情報の受信者としての資質の向上

一般のテレビCMから協働学習校の作品まで、常に情報の発信者の意図を意識して視聴することを繰り返した結果、多くの児童が「相手はこのCMで何を伝えようとしているのか」ということを考える姿勢が育った。

○情報の発信者としての資質の向上

学校、地域紹介CMの制作活動を通じ、児童が表現する内容を精選し端的に表現することの重要性に気づき、伝える相手を意識して表現しようとする姿勢が育った。

○協働学習による学習意欲の向上

同一のテーマを掲げた協働学習により、他校の児童という児童の概念を超えた広い対象を意識して学習に取り組むことができ、「自分たちが思っている以上にもっともっと分かるようにしたい」という願いをもって、表現の在り方を追究しようとする児童が増えた。

6. おわりに

今回の実践を通して一番に感じたことは、CM制作のもつおもしろさである。どの小学校の児童からも「活動することが楽しい」という声が多く聞かれた。たった数十秒の学校CMの中に、児童が考える限りの仕掛けを構想して発表する活動は、テレビからの情報に慣れきった児童にも喜んで受け入れられた。しかも、作るだけでなく友達作品を見て、思わぬアイデアに驚き、さらに見る人の心に残るものへの改良していく学習のプロセスは、児童にとって大きな達成感が味わえるものであった。こうした実践により情報活用能力の基礎的な力である、情報の選択、編集などの力が磨かれていったと思われる。

今後は、学校CMの制作のみが学習の目的にならないように留意し、児童の平素の追究課題を具体的に伝える手段として、こうした実践を総合的な学習の時間に取り入れていくのが望ましいと考える。TPOをよく考え、情報の送受信のサイクルを日常の学習の中で繰り返し、メディアを介したコミュニケーションの基礎的な力を育てていきたい。